

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人協会  
全国修学旅行研究 全国修学旅行研究  
発行人 前田 寛  
〒101 東京都千代田区  
神田錦町1-17-1 (NK第一ビル) ☎03 (5259) 0631  
振替 00160-7-36337

## 航空機・海外が更に前進 平成8年度公立学校の 修学旅行実施基準概要調査から

財団法人全国修学旅行研究協会(鈴木力理事長)は、公立学校の修学旅行実施基準概要調査を本年度も実施した。

航空機利用、海外修学旅行は、高等学校について更に前進がみられ、「申請検討」「事前協議」「試行実施」を含めると、大多数の府県が「可能」の部に入り、時代の流れを感じさせられた。

航空機利用を認めていなかった県・政令指定都市のうち、茨城、千葉、高知の三県は平成八年度から、埼玉県は平成九年度から許可を決め、条件付きの許可を除くと、「不許可」は栃木、



「愛鳥週間 真珠島の木々に巣箱を」  
(大阪市立開平小学校 2面に作文)

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

### 一路伊勢志摩へ 「あおぞらII号」で

5月9日 小学校の出発式

財団法人全国修学旅行研究協会(鈴木力理事長)主催、近鉄修学旅行専用電車「あおぞらII号」の春のスタートを記念する出発式が、五月九日午前八時から近鉄上本町駅コンコース及び九番ホームにおいて開催された。

コンコース北側には、大阪市立開平小学校(里見喜長、続いてあおぞら号近畿



花束贈呈に拍手

地区運営協議会・西中隆会長(前大阪市立真田山小学校長)から、それぞれ修学旅行の教育的意義や近鉄への感謝の言葉とともに生涯に残る旅とするよう激励された。

次に近鉄側からは永井満智男上本町駅長が三十数年にわたる「あおぞらII号」の役割を述べるとともに、安全と快適な修学旅行にするため、今後とも努力する旨を答へた。

### 主張 修学旅行の最近の問題点

広報委員 水野清孝

今年の春の修学旅行も、終盤近々近づいてきた。

言いつてもなく、修学旅行は学校行事の中でも最大の行事である。それゆえ、修学旅行に寄せる関心度は、学校だけでなく地域・保護者にもまた高い。従来から現在まで、修学旅行の本質は変わらないが、内容はその時代時代の影響を受けているとは、否めなく。

当然のことではあるが、実施に当たっては、各学校とも集団活動としての意義を明確にし、教科・道徳・特別活動の学習成果を総合できるような、生徒の実態や意見・地域の実態等を加味しているのが現状であろう。

しかし、実施してみても問題点もある。主なものを挙げてみる。

(一) 連合輸送に伴うもの  
(二) 乗車効果の低い「たまご」の名古屋以西の削減

(一) については、連合輸送の長所を生かしながら、各地区とも運営しているが、学校が希望する出発日・曜日より、学校独自に旅行を計画するところも出てくるのではなかろうか。

しかし、逆に連合輸送に入っていない学校は、希望する日・時間帯の列車が取れなくて困っている所もある。この問題については、目的が集中しないようなコース・期日を再考し、各学校とも最適な時間を利用出来るよう、連合輸送の長所をより伸ばしな

がら解決していかなければならぬ。

(二) については、JRは、日常の利用者を考慮し、列車の効率から考えられたダイヤ改正であったが、名古屋以西のこの区間が削減されたことは、米原・岐阜羽島・新富士・三島等の区間を利用している学校にとっては大変困ったことである。簡単にひかり号に切り替えられないし、乗り換えにも問題がある。

修学旅行は単なる物見遊山ではなく、教育課程に含まれる学校行事であるがゆえに、生徒の意見や希望を参考に取入れられている学校も多いが、教育的見地に立って教師の意見の比重の重さを考慮し、見学地の選定等に当たっていかねばならぬ。

先日もある新聞の「どうなっているの? 学校」の記事に、ある教師が「有名なホテルに二・三人で宿泊するとか、デイズ・シーランドや東京ドームに行くとか、修学旅行の目的が分からない。友人同士のグループ旅行と大差ない。改善に向けていきたい。」

### 風紋

「若葉して御め、雲ぬくはばや」芭蕉。六月六日は開山忌。六日を挟んで三日間、唐招提寺では国宝鑑真和尚と東山魁夷の障壁画が一般公開された。失明にもかかわらず戒律を伝えるために六度も渡航を計画し、ようやく来日を果たした鑑真をしのんで全国から参詣する人が多い。「常磐木の心なる落葉かな」乙二。目にしみる若葉の季節だが、常緑樹にとっては落葉の季節でもある。樟・樅・杉などの常緑樹は若葉が育つのを見届けてから古い葉を落とす。お天気博士の倉嶋氏は「幸福な世代交代」だと述べている。▼五月雨や滄海を衝く濁り水無村。沖繩に続き、九州南部から東北北部まで梅雨に入る。古今集のころから「五月雨」と歌や句に詠まれてきた。「梅雨の海静かに岩をぬらしけり」芭蕉。「梅雨」を当てるようになったのは、梅の実が熟するころだからという。「天龍の微雨や白雲の渡し守」許六。「微雨」は物みな微の生ずる時侯といふことから使われるようになったらしい。▼松明に雨乞ひ行くや夜の嶺「太抵。うつつしい梅雨と人々は言うが、一方稲の生育には欠かせない雨でもある。空梅雨にでもなると、農家では神に祈って恵みの雨を待つ。

▼「五月雨の又降りかかす東山」播磨。五・六月は修学旅行の最盛期。天候は旅の大きな要素で五月晴れへの思いが強いが、文化財などを落着いて鑑賞するのも大切な「五月雨の降のしつてや光堂」芭蕉。

### 夢と感動の修学旅行

人が好き。地球が好き。旅がスキ。

近畿日本ツーリスト

運輸大臣登録旅行業第20号 (社) 日本旅行業協会会員

### 楽しい旅に、大きな安心。

TOKIO MARINE

「学校旅行総合保険」をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

修学旅行生の作文

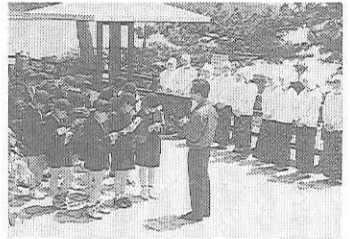
へ心に残る修学旅行

楽しかった伊勢志摩の旅

大阪市立開平小学校

鳴川 千代恵

五月九日、今日は、伊勢・志摩方面へ修学旅行に行きました。朝起きるとあいにくの雨。不安な気持ちで学校に向かいました。でも友達の間を走り、そんな不安は吹き飛びました。...



真珠島で説明を聞く

細かいところまで注意し、学習することができました。さらに、ミキモト真珠島では、海女さんたちと島にある木々に鳥の巣箱をかけるという行事にも参加することができ、びっくりしました。...

会長に仁木忠昭氏

関東地区公立中学校修旅委

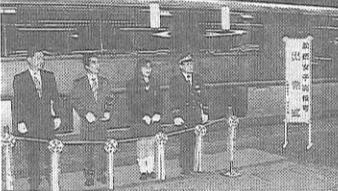
6月4日総会を開催

関東地区公立中学校修学旅行委員会(修旅委)は、平成八年年度総会並びに第一回研究協議会を、六月四日茨城県大子町で開催した。...

会長に長野氏を再選

5月15、16日福島市で開催

教職員福祉問題研究会は、五月十五、十六日、福島市において開催した。...



札幌駅でのテープカット

JR北海道のリゾート列車を初めて修学旅行専用

東京・潤徳女子高校

JR北海道のリゾート列車「四日五日の北海道旅行」に初めて修学旅行専用として利用された。...

取締役によるテープカットの後、二人のミスシンクルから生徒代表の加藤由香さん、下坂景子さんに花束が贈呈され、ブラスバンドの演奏に送られて小樽へ出発した。...

- 委員を選出した。続いて本年度事業計画及び日程、予算案、平成十年度輸送計画の作成手順等を承認し、本年度退会者二十一名に感謝状を、また特に修学旅行の充実発展に尽くされた篠澤前会長及び永年副会長五島安文(茨城・水戸)三、千本文雄(栃木・水戸)三、小室正(群馬・前橋)四、北里義人(埼玉・与野)東、...

- 事務局長 村井裕彦(千葉・八幡東)
会計委員 田中彰司(群馬・新治) 伊東繁(全修協)
監事 大森勝夫(茨城・水戸) 大塚弘(栃木・若松原)
運営委員 次城真(井東) 武雄(常陸) 高久昌彦(日高) 近藤修(土浦) 新井岡(下館) 伊藤俊三(神栖)
△栃木県 古泉臣一(宮の原) 佐藤安夫(栗野) 保々鶴田一(習志野) 伊勢佳彦(白山) 湯浅勝人(七次台) 久保正(逆井) 佐藤正一郎(西初石)
△群馬県 堀込紀夫(伊香保) 霜崎敏雄(桐生昭和) 横沢彰(六台) 加藤真喜(沼田) 西村博俊(金島) 丸橋孝義(芳賀)
△千葉県 岡田博規(新松戸) 二葉綱夫(鎌ヶ谷) 鶴田一(習志野) 伊勢佳彦(白山) 湯浅勝人(七次台) 久保正(逆井) 佐藤正一郎(西初石)
△東京都 山崎隆夫(板橋) 山崎隆夫(板橋) 山崎隆夫(板橋)...

新支部長紹介
愛知県支部長に松本氏
財団法人全国修学旅行研究協議会の愛知県支部長に、五月一日付で就任した。...

箱根高原ホテル
豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。箱根高原ホテルは、深い緑の中に700名収容の大ホールや、中小の研修室など、数々の施設が整っています。...

修学旅行/林間学校/スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい.....
夏は林間学校、冬はスキー。自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください。...

修学旅行の楽しいお食事
箱根彫刻の森美術館内 レストラン コンポート
◇500名様迄、ご利用いただけます。◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。...

東京コマ旅行会館は第8回優秀防火建築表彰で建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは安全設備を誇る当会館へ。
ホテル「全館和室」
東京都港区六本木1丁目7番地 TEL (03) 3585-1046(代表)